第七回 復曲試演の会

主催　公益社団法人京都観世会

父娘は祈り、奇跡を賜わる――

復曲能 粉河祇王

こかわぎおう

監修・校訂・補綴　西野春雄
節付・型付　京都観世会復曲委員
片山九郎右衛門
青木道喜
浦田保親
橋本光史
田茂井廣道
松井美樹
河村和貴
大江広祐

古演出による能 昭君

しょうくん

日時

2023年
6月18日（日）
午後1時開演（12時開場）

入場料

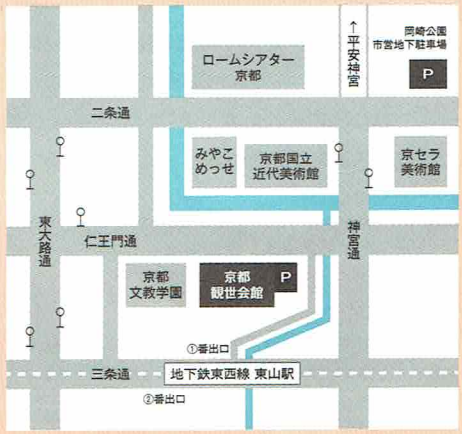
S席（1階正面指定席）	8,000円
A席（1階脇中正面指定席）	6,000円
B席（2階自由席）	4,000円
学生席（2階自由席）	2,000円

チケットは、お電話・インターネットにてお求めいただけます。（4月16日発売）

チケットWEB販売

会場・ご予約

京都観世会館　TEL.075-771-6114
京都市左京区岡崎円勝寺町44　http://kyoto-kanze.jp



京都市営地下鉄：東西線「東山」駅下車、①番出口から徒歩5分
京都市バス：JR京都駅から、5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、86・206系統「東山仁王門」下車／四条河原町から、31・46・201・203系統「東山仁王門」下車／京阪三条駅から、地下鉄東西線に乗り換え「東山」駅下車
※お車でお越しの方は、会館東隣の有料駐車場、または岡崎公園市営地下駐車場等をご利用ください。

「復曲試演の会」とは、上演が途絶えていた作品を現代の能舞台に復活させる京都観世会の取り組みです。
「もし上演され続けていたら、現代に生きる能楽師はどのように演じるか」を思いながら文献をひもとき、二年がかりで節付・型付等を行い、上演に至ります。
「粉河祇王」は、安土桃山時代頃の「吉川家旧蔵車屋本」（法政大学鴻山文庫蔵／重要文化財）を底本に、数種類の伝本を照らし合わせ、西野春雄氏の監修により能を立体化しました。

第七回 復曲試演の会

第七回 復曲試演の会　令和五年六月十八日（日）　午後一時始

（講演）
悲しみをこらえて舞う祇王の祈り　法政大学名誉教授　西野　春雄

（一時三十分頃）　（能）

復曲
粉河祇王

祇王の従者　宮本　茂樹
祇王の父　浦田　保親
祇王　青木　道喜
粉河某　御厨　誠吾
大鼓　河村　大
小鼓　吉阪　一郎
笛　森田　保美
粉河某の従者　小笠原由祠

間

後見　大江　広祐
片山九郎右衛門
橋本　光史
地謡　谷　弘之助　河村　和貴
樹下　千慧　橋本　忠樹
河村浩太郎　田茂井廣道
大江　泰正　深野　貴彦
鷲尾世志子　松井　美樹

休憩二十分

（三時五十分頃）　（能）

古演出による
昭君

王昭君　味方　遥
王母　浦部　幸裕
白桃　吉浪　壽晃
呼韓邪単于　大江　信行
里人　小林　努
大鼓　谷口　正壽
小鼓　曽和　鼓堂
笛　左鴻　泰弘
後見　味方　團
杉浦　豊彦
味方　玄
地謡　梅田　嘉宏　河村　晴道
松野　浩行　河村　和重
吉田　篤史　浦田　保浩
分林　道治　越賀　隆之

（仕舞）

弱法師　井上　裕久
二人静　松野　浩行
吉田　篤史
籠太鼓　大江又三郎
歌占　キリ　片山　伸吾
地謡　寺澤　拓海
河村　晴久
古橋　正邦
河村　博重
河村　和晃

附祝言
（終了予定　五時頃）

粉河祇王 ―こかわぎおう―

祇王は、平清盛の寵愛を受けた白拍子の名手。白拍子とは、今様を歌い、舞を舞う男装の女性芸能者である。祇王は粉河出身（現・和歌山県紀の川市粉河）という説があり、それを踏まえ、能「粉河祇王」は作られている。

粉河の地で争いが起こり、一人の若者が牢に入れられる。牢の番人は若者を不憫に思い、逃してしまう。この番人が祇王の父であった。罪人を逃した罪は重く、祇王の父は牢に入る。明日処刑という日、祇王が都から駆けつけ、面会を懇願する。舞を舞うことを条件に牢越しの対面を果たし、いよいよ首を斬られる時刻、一心に観音に祈る二人の前で、振り下ろされるはずの刀が二つに折れるという奇瑞が起こる。父は許され、伴って都へ帰るのだった。

父と娘の親子の情愛、観音信仰の功徳を描く。作者は世阿弥の実子・十郎元雅かその周辺の人物と目されている。別名「籠祇王」。

今回は、祇王が旅姿から白拍子の姿に装束を替え、父から相伝されたという舞を舞うなど、復曲ならではの工夫をこらす。

なお、粉河の地には、千手観音を本尊とする奈良時代創建の粉河寺があり、祇王が父のために舞を舞ったという「舞田」の地名が残る。

昭君 ―しょうくん―

中国四大美人のうちの一人、王昭君は、漢王に寵愛されていたが、和睦のため胡国へ差し出された。年老いた父・白桃と母・王母は、「自分が空しくなればこの柳も枯れるでしょう」と昭君が植えおいた柳の片枝が枯れてきたと、その身を案じ、涙にくれる。老夫婦は、せめて鏡に娘の姿を見ようと試みる。すると、美しい昭君の霊が現れ、続いて胡国の王・呼韓邪単于（こかんやぜんう）の霊も鬼のような姿で現れるのだった。

現行の演出では、前シテ〔白桃〕が中入して扮装を替え、後シテ〔呼韓邪単于〕として登場する。それを古いかたちに戻し、今回は老夫婦二人とも舞台に残り、後シテを別の者が演じる。

京都観世会館　京都市左京区岡崎円勝寺町44　075-771-6114　http://kyoto-kanze.jp　謡本「粉河祇王」は京都観世会館にて販売いたします。（1,000円）

注意事項 ◎感染症予防対策として、「マスク着用」「手指消毒」のご協力をお願いいたします。体調が優れない場合は、ご来場前に医療機関にご相談願います。◎許可なき写真撮影・録音・録画はお断りします。◎上演中は、携帯電話など音や光を発する機器の電源はお切りください。◎都合により、出演者その他が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

表紙写真 「粉河祇王」青木道喜・浦田保親（撮影 金の星渡辺写真場）/「昭君」大江信行（撮影 上杉遥）